

5年風組

4月に起こった熊本地震がきっかけとなり、子ども達の中には、「地震」「避難所」「防災」といった意識が高まってきました。子ども達は、『「防災」といっても自分達は、何をどうすればいいのか?』話し合いを重ね、「まずは自分達の身の回りのことを調べる。」「災害についての知識を集める。」ことを中心に学習を進めていきました。インターネットや本で災害・防災について情報を集めるだけでなく、実際に阪神大震災で被災された保護者の方の話の聞いたり、各家庭で行っている防災について調べたりしました。学習を進める中で、子ども達は、災害の怖さ、防災の大切さを実感したようです。さらに「自分達には何ができるのか?」「地域の方々にはどんなことを伝えていけばいいのだろうか?」ということを考え始めました。子ども達は、夏休み中に、自分達の住む地域の危険な場所、避難の際に役立つ物を探しています。もしもの時、自分達の地域には、どんな問題が隠れているのでしょうか?



5年光組

5年光組では、昨年までヤギ牧場として使用していましたが、今は空き地となってしまった土地を農園「すくすく5光畑」として開墾しました。もちろん子ども達には、「農園を一から作る」という経験はありません。そこで、自分達の農園のモデルとなるような農園を探す中で、和歌山市内で無農薬野菜の栽培をされている「にこにこのうえん」の吉川さんと出会いました。吉川さんに、荒れ地を開墾し、無農薬で有機肥料を使った野菜を栽培していること、一つ一つの野菜のことを聞いた子ども達は、農園作りや野菜栽培への意欲を高めていきました。農園を作る過程で雑草や害獣・害虫などの様々な問題とぶつかりながら、吉川さんやJAの方に聞いたり、インターネットや本で対策を調べたりして問題を解決していきました。自分達の農園で育てた野菜は7月の夏祭りで販売し、保護者や地域の方に買っていただきました。子ども達は、育てた野菜を収穫する喜びに加え、野菜販売を通じて、多くの人とつながることで自分達の活動に大きな手応えを感じたようです。

